

3361 トーエル

山中 正幸 (ヤマナカ マサユキ)

株式会社トーエル専務

ガス・水・電気・通信のパッケージ販売により新規需要創出をはかる

◆「トーエルライフラインパッケージ」を販売開始

売上高は、LP ガスの仕入れにおいて輸入 CP 価格が大きく値下がりしたため、販売価格の値下げを行った結果、減収となった。一方、営業利益は、前期に続き増加し、過去最高益を達成した。

セグメント別の売上推移については、LP ガス事業は輸入原価に左右されるが、ウォーター事業は比較的安定した売上を確保している。営業利益については、当社の業績を牽引してきたウォーター事業がこの 2 年は停滞気味である。

LP ガス事業は、家庭業務用の需要が 2006 年に 796 万 9,000 トンとピークを迎えたが、2016 年見通しは 639 万 4,000 トンと 10 年間で需要が 20% 減少している。今後の見通しとしては、2019 年の需要が 2014 年比で 96.2% と予測されている。マイナス成長が見込まれるエネルギー業界においてどのように対処していくのかが会社の根幹にかかわる課題であると認識している。

ウォーター事業の業界動向としては 2013 年までの急速な成長後、2014 年以降は踊り場状態に差しかかっているが、大手飲料水メーカーの参入により使い捨て形式のワンウェイボトルが伸長している。当社も従来のリターナブルボトルに加え、ワンウェイボトルに対する投資を行っている。業界としては、今後も 103~104% 程度の手堅い成長は継続するものと認識している。

当期のトピックスとしては、ガス・水・電気・通信をパッケージにして提案する「トーエルライフラインパッケージ」の販売を開始した。電力自由化に際し多くの PPS 事業者が参入したが、当社は東燃ゼネラル石油社及びオリックス社と業務提携をすることで既存顧客の囲い込みにポイントを絞り込み、セット販売により割引率が高くなる仕組みでスタートしたが、今後は新規顧客の開拓にも注力する。

ウォーター事業においては、Hawaiian Water のワンウェイボトル 12L サイズを発売した。軽量で扱いやすいワンウェイボトルは顧客からも好評を得ており、アルピナウォーターとともに当社の主力商品に置きかわるとみている。

また商品の付加価値向上を求めて開発をした高濃度水素水サーバーは非常に反響が大きく、3~4 カ月の納品待ちとなった。現在は生産体制が整い、年間約 2 万台の納品が可能となる。ウォーター事業における起爆剤になりつつあり、今後の成長が期待できる。

◆2016 年 4 月期決算概要

2016 年 4 月期の業績は、売上高 227 億 6 百万円(前期比 11.3%減)、営業利益 18 億 74 百万円(同 3.0%増)、経常利益 19 億 38 百万円(同 0.1%増)、当期純利益 7 億 86 百万円(同 30.1%減)となった。売上高はガスの販売価格を下げた結果、減収となった。営業利益は輸入 CP 価格下落の恩恵を受け、過去最高益となった。当期純利益の減少は、退職金給付債務の計算方法を従来の簡便法から原則法に変更し、約 1 億 67 百万円を特損計上したことによる一過性のものである。

セグメント別の業績は、LP ガス事業は売上高の 15.5%減に対し、営業利益は 0.5%減と微減にとどまった。売上

原価値下がり時期と販売価格改定時期のタイムラグを圧縮し、販売価格の下げ幅抑制により営業利益を確保することができた。営業利益率は前期の 13.1%から 15.4%と 2.3 ポイント改善したが、販売数量は微減となった。

ウォーター事業の売上高は前期比 2.9%増、営業利益は同 6.5%減となった。アルピナの販売本数が伸長したことに加え、水素水サーバーの設置台数増加が主な増収要因である。営業利益は、Hawaiian Water12L 発売に向け、初期投資の先行費用によりマイナスとなった。アルピナ 12L(リターナブル)の 1L 当たり単価は 79 円と他社の 100～147 円と比較しても安価な設定であり、この価格優位性を生かしながら更なる販売数量増加につなげていくことが、今後中期経営計画の数値達成への大きな要素となっている。

減価償却費は設備投資と営業権買収による償却が大半を占めており、15 億円台程度で推移している。過去には売上総利益が低い中、11 億円以上の減価償却により利益が抑制された時期もあったが、現在は安定した利益を創出できる体質になったと認識している。

貸借対照表については、現金と預金の合計が 47 億 20 百万円となった一方、長短借入金とリースの合計が 51 億 79 百万円となった。今期中に無借金経営となる可能性も出ており、将来に向けた投資の必要性も認識している。

◆2017 年 4 月期業績予想

2017 年 4 月期の業績は、売上高 231 億円(前期比 1.7%増)、営業利益 20 億円(同 6.7%増)、経常利益 19 億 80 百万円(同 2.2%増)、当期純利益 12 億円(同 52.7%増)を見込んでいる。輸入 CP 価格は 390 ドル、為替は 1 ドルを 110 円の前提としている。

セグメント別の上期下期別計画は、ガス事業の営業利益は 9.7%減、ウォーター事業は 31.8%増を見込んでいる。5G ボトルから 12L ボトルへのシフトが進み、当社のモアナルア工場が今期中に損益分岐点を超え、プラスに転じることに加え、水素水サーバーの生産体制整備により直近で 1,700 台程度の設置となっていること、それに伴いアルピナの販売本数が増加することなどにより大きな成長を見込んでいる。

◆中期経営計画について

当社は LP ガス事業を主軸とし、ウォーター事業参入により企業として大きく成長したが、改めて原点に立ち返り、創業者のモットーであり企業理念でもある「商いは全ての人に仕えること」を具体化した経営指針と行動規範の徹底に注力している。2019 年 4 月期の計画は、営業利益 22 億円、ROE10.0%以上、ROA5.5%以上である。

基本方針は、LP ガス事業で安定した収益を確保し、新規事業で会社を成長させることである。LP ガス事業については、まず物流機能の大型化を推進する。来年はバルクが 20 年の法律期限を迎えるが、1 カ所のバルク貯槽置きかえに 50 万～70 万円かかる。当社では 2,000 基以上保有しており、非常に大きな投資額となる。当社はバルクについては徹底して再投資を行う予定であり、現在バルクローリーは 13 台まで増車をした。そのうち 4 台は大型バルクローリーであり、これにより物流の合理化を進めていく。またライフラインパッケージにより既存顧客の囲い込みと新たな需要創出をはかる。

当社の事業基盤は関東圏が中心であり、密度の濃い事業展開が可能であることが強みとなっている。ウォーター事業は、顧客の 50%が都内、神奈川が 28%、千葉、埼玉と続く。供給密度の高さが物流コストの抑制につながっており、この相乗効果を更に高めていきたい。

ウォーター事業の方針は、高品質の原水にこだわり、競争力ある価格にて提供することである。そしてリターナブルボトル、ワンウェイボトルの豊富なサイズ展開をはかる。アルピナのリターナブルが 8L、12L、5G、Hawaiian Water のワンウェイが 8L と 12L、これらのラインナップで顧客のニーズに応えていく。特に Hawaiian Water ワンウェイボトルのニーズが今後高まっていくものとみている。

新規事業については、都市ガスが自由化される来年 7 月をターゲットにし、「トータルライフラインパッケージ」に

注力する。高濃度水素水サーバーは、水素濃度 3.4ppm を強みに健康・美容分野へ参入し、異業種における取引が始まりつつある。

投資については、ライフライン事業者として BCP に基づいた投資計画を実施する。ガス事業は、物流機能の大型化と備蓄能力の強化に努める。ウォーター事業は、長野の大町第 1、第 2 工場が現在 24 時間フル操業状態となっているため、水源の分散多極化への投資を検討している。BCP の観点から、安定供給について再度投資のあり方を 3 カ年計画において見直していく。

また当社はガス、水に次ぐ第 3 の事業として、植物工場と養殖に取り組んでいる。ベビーリーフは安定的な出荷ができており、イチゴは非常に甘くて大粒な品種を生産し、「Princess COCO」の商品名での販売を予定している。養殖は現在トラフグを展開しているが、アワビの実験も始めており、3 年以内に事業化のめどをつけたい。

配当は、従来どおり 1 株当たり 15 円の予定である。

◆ 質 疑 応 答 ◆

水素水サーバーの普及拡大は収益にどの程度寄与できるのか。

直売については、レンタル料を抑えており、大きな収益は期待していないが、製品の卸販売について多くの引き合いが来ており、大きな利益が期待できる。水素水は嗜好品ではなく、目的を持って利用される製品であり、社員モニターの結果では、従来の 1.5 倍量が飲まれる結果となっている。

ガスの自由化に向けて、御社のビジョンについて伺いたい。

LP ガス事業におけるガスの成長は、半分が買収によるものであり、最大のポイントは中小企業の M&A であると考えている。今回の自由化に際する企業淘汰をチャンスとしてとらえたい。

M&A が進展する機運は業界内で出ているのか。

ガス自由化への対応を断念する企業は既に出てきている。

(平成 28 年 6 月 21 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

<http://www.toell.co.jp/ir/material.html>